週報　No.2362号

本 日 の 例 会 （第２３６３回）

平成31年３月５日(火)

予　定　行　事

☆お誕生日のお祝い
　　杉本　侃 会員（87歳）　　菅原　正明 会員（69歳）　　田中　和雅 会員（55歳）

☆卓　話　テーマ「熱気と錯乱の昭和」
　　卓話者：杉本　侃 会員
　　略　歴：入会年月日：1990年７月３日　　生 年 月 日：1932年３月21日
　　職　　業：(医)緑風会病院 理事長　　職 業 分 類：病院経営
　　ロータリーでの活動歴
　　1998年度　第30代会長　　1999年度　会員選考副委員長
　　2000年度　国際奉仕委員　　2001年度　米山奨学会副委員長
　　2002年度　ロータリー財団副委員長　　2004年度　米山奨学会
　　2010年度　ロータリー財団副委員長　　2011年度　米山奨学会委員・委員長・副委員長
　　2014年度　ロータリー財団　　2015年度　国際奉仕委員会
　　2016～18年度　ロータリー財団
　　趣　味：ゴルフ、囲碁

☆定例理事会⑨　13：45～　事務局（理事会構成メンバー）

光源氏のこと

芦田　耕一

先日の源氏物語の卓話の話を芦田先生に週報用に要約していただきました。一読いただけたらと思います。それと、一部の会員さまより桐壺更衣の壺の意味は？？？との質問がありましたので、確認させていただきましたところ「話題にしていただいた「壺」は「坪」と同じで部屋の意味です。特に、宮中の部屋のことです。」とのことでした。

by 会報広報委員長

生い立ち

光源氏は父桐壺帝（みかど）と母桐壺更衣（こうい）の子として生まれるが、異腹に長男がおり、帝にとっては次男である。帝は格別に更衣を寵愛し、他のお后方を無視する。このため、世人は中国の玄宗皇帝と楊貴妃のことを想起し、国が乱れるのを心配するほどであったという。

（裏面につづく）

次回例会のお知らせ［第２３６４回・平成31年３月12日（火）］

★卓話予定
　・テーマ：「英語落語と英語教育」
　・卓話者：岩本　義則 様〔50周年記念事業「体験授業」講師〕
　　（井上　芳郎 会員　紹介）
★次週3月19日（火）は休会です。

★お食事はミニ会席料理です。
★例会場　　４Ｆ　真珠の間

・来客紹介（2月26日）　４名
（2660地区内　２名・地区外　０名・ゲスト　２名）
・出席報告

例会回数	第2359回	第2360回	第2361回	第2362回
例　会　日	1月29日	2月5日	2月19日	2月26日
会員総数	４１名	４１名	４０名	４０名
出席免除会員数	１４名	１４名	１４名	１４名
欠席会員数 (内､出席免除会員数)	１５名 （７名）	１６名 （８名）	９名 （６名）	１２名 （７名）
出　席　率	76.47％	80.64％	91.18％	84.85％
修正出席率 (メーキャップ数)	95.12％ （２名）	89.74％ （１名）	――	――

・ラッキーくじ
賞　品　名　『亀の小物入れ』
賞品提供者　芦谷　裕一 会員
当　選　者　岩元　孝樹 会員
　　田中　潤治 会員
参加者数　14名
・卓話
テーマ「デジタル時代のIoT/AIの活用方法」
卓話者：十河　元生 会員

会員名	ニコニコ事由
十河　元生	＝卓話当番
小嶋　　敦	＝ラッキーカード当選
髙士　誠司	＝ラッキーカード当選
尾下　千明	＝暖かくなって来ました。春はもうそこです。
勝亦　良彰	＝本年、初出席です。すみません。
瀬田川昭俊	＝先週の例会、並びに歴代会長懇談会、出席できず、すみません。
三宅　　有	＝小嶋さん京都マラソン、柴崎さん姫路マラソン、髙士さん寝屋川ハーフマラソン、おつかれさまでした。
竹井三千彦	＝トランプも口が軽いですな～で一句『ノーベルよりギネスに乗せたいおベンチャラ』
小山　　登	＝50周年記念の体験授業の講師をお迎えして。
吉岡　康雄	＝京都マラソンに来た台湾青年と竹井さんで、ヒルマンで夕食をしました。阿江さん、差し入れをありがとうございました。
柴崎　秀樹	＝昨年より、ドライバー不足で悩んでおりましたが、１月末になって、突然十数名の面接の応募があり、うれしい悲鳴をあげています。
隅防　嘉之	＝ＳＡＡに声をかけられて。
弓田　浩司	＝ＳＡＡに声をかけられて。
菅原　正明	＝ＳＡＡに声をかけられて。
最上　次郎	＝ＳＡＡに声をかけられて。
増田　久弥	＝早退

本日計 20,000円 ／ 総合計 849,000円
（目標 1,300,000円）
ご協力ありがとうございました。

（表面のつづき）
面白くないお后方は更衣を目のかたきにし、更衣の家柄がそれほど高くないのでさげすむような態度をとり、徹底的にいじめぬくのである。もともと病弱であった更衣は心労のあまり没する。時に源氏は数え三歳である。以後、源氏は母の面影を求め続ける。一方、帝の方も追慕し、更衣に似ると周囲の人達が噂する女性をお后として迎え入れるのである。彼女は藤壺と呼ばれる。世人はこの二人を「光る君」と「かかやく日の宮」と称し、美男・美女の代表としてもてはやす。後に、この二人は密通するのであるが、二人を併称させるのは、密通の伏線であろう。

臣籍降下
源氏が七歳のころ、来朝していた高麗の人相見が源氏の特異な相をみて、帝になるのはよくないと予言する。父帝は異腹の長男とのからみ（たとえば長男をさしおいて源氏が帝になる）から政争の種になることを危惧し、皇族の籍を奪い、臣下の身分とし、源姓を与える（このゆえに光源氏と称する）のである。臣下となった源氏は役人（国家公務員）としての生活を始め、出世街道を走り続け、太政大臣にまで上りつめる。この皇族離脱は源氏に負い目を与えなかったであろうか。